

ホーム名：グループホームなぎさ						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも目に入るように1階の廊下に掲示し、管理者と職員で共有している。	事業所として地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を設定している。理念の実践は、管理者を中心に日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているのか確認されている。	今後も事業所で働く職員一人ひとりが、事業所の理念を理解し、日々、利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを大切に意識して頂きたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される盆踊り、ハロウィンやクリスマスイベント等地域の行事にも積極的に参加している。他にも、年1回の事業所の祭にも地域の商店や民生委員さんが出店したり、ボランティアで参加してくれている	法人が運営する認知症カフェ「ののか」を地域との交流の場として活用しながら、地域に暮らす住民の一員として、地域貢献に努めておられる。	今後も継続してカフェ「ののか」を通じて、近所づきあいや地域の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいかれることに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地域の認知症サポーター養成講座にも参加し、地域の認知症の理解と啓発に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状と事故などを報告したり、グループホームの取り組みを話し、役場職員などの参加者から指示を仰いでいる。	町役場職員、地域包括、民生委員等地域の代表者、利用者のご家族の方等が出席され、事業所からの状況報告とともに参加者からも質問、意見、要望等があり、双方向的な会議が行われている。	開催は年3回のため、今回の開催まで時間が空くので、議事録には、会議状況報告の議事以外に決定事項、質疑応答、宿題等に分類整理し、次回の会議では前回の議事録確認から開始されてはどうか。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	岬町役場認知症推進委員と一緒に認知症カフェを開催するなど連携を取っている。また、岬町高齢福祉課職員に事業所運営で不明な点は電話相談するなど協力して頂いている	事業所の状況は、町役場職員に運営推進会議に出席して頂き、情報共有できている。又、町役場の認知症推進委員と連携したカフェ運営等を通じて、日頃から密に連携した取り組みもできている。	現場での課題や問題の解決には、町役場職員に現場の状況を把握して頂くことも必要になると思われるので、町役場職員に事業所を認知症の理解を深める研修の場として活用してもらい検討をされてはどうか。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についての職員研修を実施し、職員全体での意識の共有に努めている。ただ、玄関の鍵については施錠している。	各職員向けに研修を行い、会議等で職員同士が意見交換を行い、身体拘束を防止している。車イスの利用者も多いため、利用者の安全確保のため、玄関は施錠されている。	身体の物理的拘束以外に、スピーチロックやドラッグロックによる薬物の過剰投与や不適切な投与で行動を抑制することも身体拘束につながると考えられるようになってきているので、意識されているとは思いますがそうでない場合は、意識してケアに取り組んで頂きたい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で学ぶ機会を設けて職員全体で共有している。虐待につながるような不適切なケアを職員間で理解し、虐待防止に努めている			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>1年に一度、市民後見人の実習先として、実習生を受け入れており、役場職員から後見制度について説明を受ける機会を設けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は管理者から十分説明をし、改定等の際は書面で通知、質問等も随時受け付ける体制を取っている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>新しく入居される方に関しては、ご本人の情報と一緒に本人やご家族の要望を記入してもらう書類を設けている。書くのが難しいご家族には、管理者やケアマネージャーが家族と話をし、聞き出すよう努めている。</p>	<p>家族には事業所訪問時や家族会等で常に声かけを行い、出された意見、要望等は職員、管理者、代表者と話し合いが行われ、運営に反映できるものは反映させている。</p>	<p>家族からの意見や要望等は、ノート等に記録されているかと思われるが、スマホ等の音声文字変換アプリ等を活用し、その場でデータとして記録しておけば、迅速かつ正確に事業所内で共有化もされるので、検討されてはどうか。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>全体の職員会議は少ないが、日常的に空いた時間を利用し、出勤職員で簡単な会議を行っている。参加できない職員には後日報告。</p>	<p>代表者と管理者は、各職員からの運営や管理についての意見に耳を傾け、運営に活かし、職員の働く意欲の向上につながるよう努めている。</p>	<p>変化する利用者や家族の状況に必要な支援を迅速に提供するためには、職員からの意見が大事となるので、これからも職員とともに事業所運営に取り組みたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の勤務状況や、勤務態度等を把握し、役職への登用や処遇改善手当に反映させている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の講義や講習に積極的に参加してもらう為に金銭面での援助や、良い講義を推薦するなどを行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1度、岬町内の事業所に声をかけ、集まり勉強したり懇親会をする「ケアカフェ」を主催している。他にも、RUN伴というイベントの実行委員長を務め、他事業所との関係作りをしている</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前には必ず管理者が本人や家族に面会し、状況を確認する</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学や体験入居に来て頂いた際に管理者、計画作成担当者が十分に時間を取って家族の悩みや要求を聴くようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームの対象にならない、家族の要望がグループホームでないと判断した際は、他施設の紹介を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事や本人の出来る事をやってもらう事で、職員が提供するだけでなく、本人と一緒に過ごすという事を大事にしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>外出や行事に家族も誘って参加してもらう事で、普段の様子を知ってもらえる。また、催しにも参加してくれる家族も出てきている。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前に施設の周辺で生活をしてきた方が増えているので、面会者も友人や親せき等が多く面会に来られるようになった。</p>	<p>ご家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近隣への散歩等を通じて、地域の方と交流を行い、地域との関係性も維持継続できるよう日頃のかかわりの中で様々な工夫をしている。</p>	<p>入居するとこれまでの関係性が途切れがちになりやすいと思われるので、友人、知人のことや馴染みお店、場所等について日常的な会話を通じて思い出してもらえるように努めていかれることに期待したい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者1人1人の人間関係や趣味・嗜好を考え、利用者同士で関わりあえる機会を作っている。仲の良い利用者さん同士でソファに座って談笑したりする場面も多く見られる</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も入院先へ訪問したり、ご家族に手紙を送ったりという繋がりを継続している。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がやりたくない事や、出来ない事は強制することなく過ごしてもらっている。その日の気分や体調によっても違いがあるので職員が気付くよう努めている	管理者と職員は、利用者が望む暮らしや何をしたいのか等を理解するために日々のケアの中で利用者に声を掛け、常に把握に努めている。	把握した利用者の意向や思いは、スマホ等の音声文字変換アプリ等を活用し、その場でデータとして記録しておけば、例えば、職員間の引継ぎ時、正確生も高まると思われるので、検討されてはどうか。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人との会話や家族からの聞き取りの中で、馴染みの生活を把握し出来る事ややりたい事を継続して行えるよう支援している		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来る事でも、日によって気分も違ったり、体の状態も違うので強制するようなことはせずに、本人の意思に任せるようにしている		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に変化があれば随時職員で集まり介護計画の見直しを行っている。また、ケアマネージャーから家族への説明もおこなっている	本人の視点にたつてその人らしい暮らしを続けられるために、必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成されている。又、本人の変化があれば、必要に応じて介護計画は見直しされている。	本人の状態の変化や期間に捉われず、又、本人や家族等からの新たな要望や意向がないような場合でも、本人との日頃のかかわりの中での思いや意見を大事にされ、必要に応じた介護計画の見直しに取り組んでいかれることに期待したい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には介護計画を掲載し、実践できたかどうかを毎日確認している。また、変わった事があれば追記し職員間で共有できるようにしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考慮し単身者の場合買い物などを職員が行っている。家族が高齢の場合もこちらから出向いて相談に乗ったりするケースもある。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される認知症カフェやデイサービスの行事等に参加するなど地域との繋がりをもっている。他にも盆踊り、ハロウィンやクリスマスイベント等地域の行事にも積極的に参加している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で1ユニット毎の往診を受け、一人一人主治医から話を受ける体制を取っている。往診の際、職員も付き添い、体調の変化を報告している	近隣の協力医療機関による往診医療を受けられている。往診時、職員から利用者の体調の変化等を説明されている。	利用者の日々の体調記録管理に、タブレットによる記録入力アプリを活用されてはどうか。記録入力されたデータは、往診前に協力医療機関とデータによる連携も可能となり、往診時の効率化にもつながると思われるので、検討されてはどうか。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>医療連携しているクリニックの看護職員に日頃から、入居者の体調の変化を報告し、相談できる体制を取っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>内科疾患については協力医療機関で入院が出来るため、利用者の状況が常時把握できるように連携を取っている。そして早く退院させてもらうように努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した際の事業所が出来る範囲を説明し、理解、同意を得ている。また、体調不良やADLの低下が見られる際には、主治医を交え家族と今後の方針について話す機会を必ず設けている。</p>	<p>事業所としての重度化や終末期の看取り方針の策定はこれからとなるが、本人と家族の意向を踏まえて、協力医療機関と事業所が連携をとり、本人と家族が安心して重度化や終末期を過ごせるように考えておられる。</p>	<p>重度化や終末期の対応では、様々な状況の変化に日々、迅速に対応していくことになるかと思われるが、いざというときには、あわてず、あせらず、あきらめずに本人や家族の揺れ動く思いに寄り添いながら、対応されていかれることに期待したい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時に連絡手順等を職員で共有している。また、協力医療機関を24時間体制で連絡、指示を受けてくれる体制になっている</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を実施。うち1回は必ず消防署職員が立会いのもとで訓練を実施している。</p>	<p>想定される災害に対し、消防署職員から、最適な避難対策のアドバイスを頂きながら、避難訓練で実践されている。</p>	<p>災害の発生は予測できないが、地域で想定される津波や地震の具体的な影響はある程度、把握できるかと思われるので、その上で、考えられる現実的な避難対策を検討され、訓練がマンネリ化しないよう内容にも変化をつけていかれることに期待したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という敬意をもって接するように職員間で意識を持つように努めている。同性介助も対応している。	介助が必要な時は、本人に気持ちを大切に考えながらさりげない言葉かけやケアをされている。又、年長者としての敬意を払い、馴れ合いの関係にならないよう利用者の尊厳を大切にされている。	利用者の人格尊重とプライバシーの確保を、全職員で維持していくことは難しいと思われるが、職員間で日頃のケアの中で、常に具体的に確認しあうことが大事と思われるので、大切にしていくべきだ。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことだが、自分が飲みたい飲み物を自分で決定してもらったり、朝食をパン食かごはん食かを選んでもらったりしている。服装に関しても職員と一緒に選ぶ機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を出来るだけ聞き出し、毎日無理の無いよう生活してもらっている。日中フロアで過ごすかたや居室で横になったりテレビを楽しむ方など様々な形で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人専用の化粧品を持ち込んでもらう等の支援をしている。その日着る服に関しても本人と一緒に選ぶようにしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯やパン、おかゆ等本人の好きなモノを選んでもらうようにしている。また、食事の下ごしらえや片付けも入居者と一緒に行うようにしている。時にはキッチンに一緒に立ったり、味見をしてもらったりしている	職員による手作り食が提供されている。利用者は、好みに合わせて、ごはんやパンを選べたり、分量を調整したり等で、食事を楽しんでいる。又、盛り付けや配膳、後片付け等、利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行うことを大切にされている。	今後も盛り付け、配膳、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に進めていくことにより、利用者一人ひとりが食事を楽しんでもらえるよう努めていかれることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	本人の体の状態を把握したうえで、食事の分量を一人ずつ変えている。水分も一回では多く摂取できない人の場合は、量を減らし提供回数を増やすよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室で口腔ケアを見守る。介助が必要な入居者にはセットし声かけをして促すよう努めている。希望者には週1回の歯科往診で口腔内ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の介助が必要な人は、排泄の間隔を職員で把握し、失敗の無いように声をかけ、支援している。少しでも失敗を減らす事で布パンツへ変更出来ている。	各居室にトイレが設置されており、利用者は、回りを気にすることなく行きたいときにトイレに行くことができる。介助が必要な利用者は、排出パターンにそった排出介助が行われている。	布パンツへ移行された方も多いとのことだが、自立排泄のさらなる向上に向けて、排泄に関する適切な介助と知識を取得できる”おむつフitter”という資格にもチャレンジされてはどうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会も少なくなるので、出来るだけ車いす利用の方も椅子へ移乗したり、トイレ時は自分の力で立つてもらったり、少しでも体を動かす機会を作るようにしている。昼食前や15時には体操も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望通りの時間では入浴出来ないが、入る順番や曜日を本人のその日の希望で変更する事は対応している。また、入浴剤やヒノキ玉を入れたり、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を出すようにもしている	職員が強制的に入浴時間帯を決めず、利用者のその日の状態や希望を確認してから入浴時間帯を決めている。又、気持ちよく入浴してもらえるよう入浴剤等を活用し、季節感を感じてもらえるよう工夫されている。	今後も継続して、利用者の状態や希望にそった入浴時間帯の調整を行いながら、入浴の場を利用者の思いや意向を確認できるコミュニケーションの場としても活用されていくことに期待したい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の希望で日中でも居室で休んでもらえるように支援している。寝具も家からの持ち込みで時期に合ったもので安心して眠る事が出来るよう努めている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や薬領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各入居者のファイルに個々の薬状をはさんでおり、すぐに関覧できるような状態にある。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人が嫌にならない程度に、普段の生活のお手伝いをお願いしている。食事作り、洗濯、掃除などを職員と話をしながら行っている</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎回のように全員の希望には添えていないが、天候の良い日などは出来るだけ近くを散歩したり、外出もするように努めている。少し遠くに掛ける際には家族にも声を掛け一緒に行ってもらおうようにしている</p>	<p>利用者が事業所の中だけで過ごさずに日常的に外出できるように利用者の希望に応じて、近隣への散歩を楽しんでもらえるよう努めている。又、事業所のイベントによる外出時は、ご家族にも参加を呼びかけ、楽しんでもらえるよう努めている。</p>	<p>外出が面倒と思われておられる車イス生活の利用者に対しても気分転換や五感刺激の機会として、近隣のカフェ”のの”へのイベントを通じた外出を楽しんでもらえるよう取り組んでいられることに期待したい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていたいという入居者には、家族の同意の上、少しだが現金を持ってもらっている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>お正月には年賀状を出している。電話は本人が希望するときかけられるような体制にしている</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの壁には月ごとの貼り絵を入居者と一緒に作り、季節感を感じてもらおう為に貼っている。各居室の空調も利用者の希望でつけたり、職員が気付けば空調を管理するようにしている。</p>	<p>利用者と暮らしとは無縁の飾りつけや装飾品をなるべく置かず、季節ごとに利用者手作りの飾り絵や写真等が飾られている。リビングは清潔かつ開放的で広く、日差しも差し込み過ぎしやすい空間となっている。</p>	<p>職員の感性や利用者の思いも大切にしながら、利用者のご家族や地域の方等からの気づきや感想、アドバイスも参考しながら居心地のよい共有空間のづくりに取り組んで頂きたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにはソファを置き中の良い入居者同士でくつろげるようになっている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には必ず家族に使い慣れた物を持ち込めるという事をお伝えしている。写真やいすやテレビ等持ち込んでくれている</p>	<p>各居室は、利用者に安らぎを与え居心地よく過ごしてもらえるよう思い出の品が持ち込まれ、飾りつけされている。テレビも置かれており、居室で見たいTVが楽しめるようになっている。</p>	<p>今後も継続して、プライバシーが確保され、安心して過ごせる居室づくりに取り組んでいって頂きたい。又、利用者になじみのある和室（畳を敷く等）化への取り組みも検討されてはどうか。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>タンスや居室のドアなどに張り紙をして自分で理解できるような工夫をしている。居室には本人の写真付きの表札も飾っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない